

# 放課後等デイサービス自己評価表事業所向け

放課後等デイサービス ぱれっと草薙南 集計数(7)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4	3		・20名定員となったが、有効に使えたのではないと思う。2階もあるので、支援員同士で利用者さんがどこにいるか全員が把握するよう努めた。
	②	職員の配置数は適切であるか	3	4		・学校の日課や利用者さんへの支援の必要度にもよるが、おおむね適切だったように思う。自立や自活に近づくことが目的なので、手をかけすぎて自立や自活の芽を摘んでしまわないよう心がけた。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	3	4		・車いすや独歩が難しい利用者さんに配慮した設計になっているが、多くの利用者さんが独歩可能なので、活用することはあまりなかった。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	2	5		・手立てと目標を明確に分けるよう周知した。手だてが目標にならないようにすることと、前回の活動の反省点を次回の改善点に盛り込むよう心がけた。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	4	3		・前年度保護者からいただいた防災に関する取り組みに重点を置くことを意識した。送迎の際などに直接お話を伺い、全員に周知したり注意点を共通理解したりしている。評価のための評価にならないことを心がけた。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		2	5	・今まで公表することはなかった。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1	3	3	・第三者の方による評価は受けたことがない。保護者の方のアンケートや利用者さんの反応は業務改善の参考にさせていただいている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5	2		・組織的には行われなかったが、具体的な場面を通し利用者さんの反応も見ながら話しあったりアドバイスしたりした。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	3		・場当たりので事業所の独りよがりにならないよう、お子さんの将来の自立や自活につなげることを意識して計画するよう心がけた。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1	6		・ツールを使うことはなかったが、必要に応じて発達検査の結果を見せていただき、数値の見方や支援への活かし方について話し合い保護者の方にアドバイスした。数値はその時の状態によって大きく異なるので、数値だけに振り回されて目の前のお子さんを見ないことがないように心がけた。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	3		・月のイベントカレンダーを作成し、全員で知恵を出し合い場当たりのにならないよう心がけた。その際には目的と手段を明確に分け、その活動が将来の自立や自

					活にどうつながるか、ということも意識するよう心がけた。
⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>マンネリ化しないようプログラムを組んだが、似たことを繰り返し行うことで安心したり内容が定着したりする利用者さんもいるので、季節を変えて同じことをおこなったり少し内容を変えて行ったりすることは有効だと考える</li> </ul>
⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>大まかな活動は立てたが、細かくしすぎると、利用者さんの意に添わなかったり窮屈になったりしてしまう。好きなことなら何をやっても良いということではないが、自由時間を自分の力でコーディネートすることの必要性も意識した。</li> </ul>
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	3	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>無理に集団に入れて不応を起こすことがないように心がけた。利用者さんが自分の気持ちに余裕がない時には、絶対にグループの輪の中に入れることはしない。</li> </ul>
⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>その日の大まかなスケジュールを確認するだけでなく、活動後になる場合もあるがその活動の意味や将来にどうつながるかなどについて話し合ったりアドバイスしたりする機会を設けるよう心がけた。</li> </ul>
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>翌日に異なる職員が担当することもあるので、申し送りは必ずおこなった。不応を起こしたらそのことだけでなく、きっかけやその時の状態などについても申し送るよう心がけた。</li> </ul>
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>情報交換を行いながら記録をとった。できごとの羅列ではなく、背景やそのことの意味などについても記録するよう周知した。時には半年前や1年前を思い起こして、利用者さんの安定や成長について職員や保護者の方と話し合う機会も設けた。</li> </ul>
⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者さんの将来につながる、評価に基づいた計画を作るよう心がけた。必要に応じて相談事業所に実際の利用者さんの姿を見ていただき、第三者の目から利用者さんを見てもらう機会も設けた。</li> </ul>
⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	3	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>安心、安全、安定が第一であると考えている。学習支援は教えるのではなく、学習習慣を身に付けたり問題を宝探しのようにして解く楽しさを味わうことが目標であることを周知し、家庭教師や学習塾のようにならないよう心がけた。</li> </ul>
関係機関や保	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	3	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>まず手立てや支援があるのではなく、利用者さんの将来の姿を意識し、ゴールイメージを作ってから必要な手立てや支援を考えたり評価したりし、共有するよう努力した。</li> </ul>

護者との連携 関係機関 や保護者との連携	⑳	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>短時間で情報交換を行うよう努めた。求められれば在所中の様子をお伝えし、同一方向で利用者さんの支援に当たれるよう心がけた。</li> </ul>
	㉑	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	1	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアが必要な利用者さんのご利用はなかった。服薬やアレルギーなどについては全職員で共通理解し、医療的な事故が起こらないよう周知したこともあり、医療的な事故はおこらなかった。</li> </ul>
	㉒	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	2	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてではないが、入学前の支援について関係機関とその課題について話し合った。園によって特別支援についての考えが異なり、公立と私立でもその差が顕著であることを感じている。</li> </ul>
	㉓	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	2	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の方と特別支援学校卒業後の進路について話し合ったことはあるが、それ以上の申し送りなどは特に行っていない。</li> </ul>
	㉔	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	2	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用することはなかったが、静岡市特別支援教育センターや静岡市発達障害者支援センターとは、いつでも情報交換できる関係性を築いてある。</li> </ul>
	㉕	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>この項目については保護者から低い評価をいただいているが、評価の項目として適当であるか一考の余地があると考え。買い物に出かけたり地域の施設に出かけたりすることで、健全な方と触れ合う機会は設けられていると考える。</li> </ul>
	㉖	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	1	2	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に参加はしていない。地域を盛り上げようとしているグループやボランティアや障害者スポーツの団などとは連絡を取り合い、活動が狭い範囲にとどまらないよう心がけている。</li> </ul>
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>単に行ったことや様子をお伝えするのではなく、そのことの意味や将来の自立や自活とのつながりなどについて共通理解するよう心がけている。いつもと異なる支援や新しい支援を行う時には、事前に保護者の方に説明し、納得していただいている。</li> </ul>
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	3	3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>申し出があれば行うが、特に行うことはなかった。プログラムに頼らず、利用者さんの安定や成長はわが子をプラス評価し保護者の方の自己肯定感を上げることもつながるので、小さなことでもよい表れを見つけてお伝えすることに心がけた。</li> </ul>
保護者	㉙	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>見学時や契約時や受給者証の更新・支援計画の見直しの時などに、手続きが機械的にならないように気をつけている。</li> </ul>

への説明責任等	③①	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>送迎時などに保護者の方に積極的によい表れをお伝えするよう心がけている。進学や就労について不安に感じている方もいるので、求められればその都度時間を設けて話を伺ったりアドバイスしたりしている。</li> </ul>
	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの影響もあり、進路学習会1回にとどまった。収束の気配も感じられるので、計画的に事業所を解放し、風通しを良くしたいと考える。</li> </ul>
非常時等の対応	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな苦情はなかった。保護者の方にもこの件については特に不満に感じることはないという高い評価をいただいている。</li> </ul>
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	3	3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>月ごとのイベントカレンダーの発行にとどまった。LINEアカウントも整ったので、紙面に頼らずさまざまな方法で情報発信をしたいと考える。</li> </ul>
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>情報が外部に漏れたりうっかり口にしてしまったりすることがないように、職員に周知している。</li> </ul>
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>事情も知らずに「がんばってほしい」などという安易な励ましはしないよう心がけている。緘黙の子どもには筆談やYES・NOの選択など、自分の気持ちを相手に伝える手立てを用意している。表出の少ない利用者さんの、ちょっとした表情や動きなどにも目を配り表れをみとるよう心がけている。</li> </ul>
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0	5	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に行わなかったが、地域の行事に参加させていただくことはあった。</li> </ul>
③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>マニュアルを作成するだけでなく、シミュレーションをしたり訓練したりして、万が一の時にあわてず対処できるよう心がけた。</li> </ul>	
③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>発災の時にあわてなくてもよいよう、避難訓練を計画的に行った。非常食を食べる機会なども設け、防災に関する保護者の方の意識も高めるよう心がけた。防災用のラインアカウントのもほとんどの保護者が加入してくださったので情報の送受信の訓練を行うが、情報量が多くなりすぎないように注意する。</li> </ul>	
④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉や力でコントロールすることは絶対にしないよう周知した。充実した時間を過ごせれば不適應を起こしたりパニックにすることはないので、利用者さんが楽しく自分らしく過ごして、次の来所を楽しみにし保護者の方もわが子を安心して託せる事業所を目標としている。</li> </ul>	

④①	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	5	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 充実した毎日を送ることができれば不適應を起こしたりパニックを起こしたりすることはないと考える。毎日が充実していれば、拘束しなければ利用者さんをコントロールできない状況には陥らないと考えている。</li> </ul>
④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 利用者さん同士のおやつや食べ物の交換は絶対にしなかった。調理の際には事前に保護者の方に内容や原材料などを伝え、問題がないことを確認してから口にするよう徹底した。</li> </ul>
④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 背景やそれに至った原因について全員で話し合い、問題点を改めることで、同じことが原因で別の事故が起こらないように心がけている。</li> </ul>